

## 山乃井

〔顕注蜜勘云、東山靈山のかたはらに山の井といふ所あり、山之井中務なかつかきの居なりとぞ。今詳ならず。又山井寺といふ寺あり。明月記云、承元二年四月一日法性寺ほつしやうじどの殿今日より十講を始められ、三日五部の大乘經、入道殿の御筆を以て料紙として山井寺に渡さる、御願なりと云云。

さらしなの日記云、四月つもごりかた、さるべき故ありて東山なる所へうつろひ、靈山ちかき所なれば、まうで、おがみたてまつるに、いとくるしければ、山寺なるいし井によりて手にむすびつゝのみて、この水のあかずおぼゆるといふ人あるに、

おく山のいしまの水をむすびあけてあかぬ物とは今のみやしる

家集 又俊頼髓腦詞書曰〔百寺たつとて、ひんがし山のへんにありける山の井といふ所に、桜のさかりに咲てはべりけるを見て、ともなる人のしけるとぞ、

山の井のふた木のさくらさきにけり

といひしに

みぎとかたらんこぬ人のため

赤染衛門

藻虫菴旧趾

〔靈山のほとりならん、今詳ならず、又洛北鳴瀧妙光寺の内に此名あり、後世こゝに移すか〕

東山藻虫庵にすみ給ひしに、妙寿院久しくをとづれなかりける頃、

よみてつかはしける、

舉白集

あまのかる藻に住虫の隠れ家は問ぬに付て誰かうらむる

長

嘯

鼠堂屋敷

〔土人云、三年坂の下路の東をいふ。又こゝに一竹塚といふあり、今詳ならず。盛衰記曰、南殿に■の音

して一ツの鳥ひゞきわたりける、殿上より人やある罷出て搦めよと仰らる。左衛門佐平清盛きよもりおとに付て宣旨ぞと云ておど  
りかゝる所に、此鳥騒で袖の内に飛入てけり、即取進らせたり。これを叡覽えいらんあれば、老たる毛シウなり、是鼠の唐名な  
りとぞ。頓て南台の竹をめして中に籠て清水の岡に埋まれたり、それより御惱の時は勅使を立て宣命を含まる。毛朱一  
竹塚とは則是なり云々〕

経書堂

〔三年坂の上にある、聖徳太子しやうとくこゝに於て弥陀三尊を空中に拜し給ひ、此寺を草創ありしなり。其後小石を

聚めて道俗男女に法華経を書しめ、自他解脱の因を授給ふ所なり〕

本尊聖徳太子

〔御自作、十六歳の像、三尺許。側に弥陀三尊を安置す、来光院と号す〕

嫗堂うばだう〔経書堂きやうかくだうの南向にあり、金性院に号す。三途河の婆像を安置す、座像三尺許、運慶うんけいの作。初は五条河原の岸に

あり。又愛染明王あいせんを安置す〕

大日堂だいにちだう〔経書堂の東にあり、真福寺しんぷくといふ。本尊大日如来は弘法大師の作、座像七尺許。初は富小路中御門とみのこうちにあり

て、尊体寺そんたいじと号す。此地はいにしへ車寄馬止のありし所とぞ〕

輪藏りんざう〔堂内にあり、真盛上人蔵経の上巻一卷づつを収め諸人に結縁せしなり〕

仲光院ちゆうくわうあん〔大日堂の南にあり、本尊愛染明王、歡喜天くわんきてんを安置す。開基は多田満仲公ただまんちゆうの臣仲光入道なり。光寿丸美女御

前の二影あり〕

宝徳寺ほうとくじ〔仲光院の北にあり、時宗。本尊阿弥陀仏、是いにしへ一遍上人の開給ひし宝福寺ほうふくならんか〕

地藏院ぢざいあん〔馬止の側にあり。本尊如意輪觀音にょいりんくわんおん、春日の作、座像三尺許、相好無倫なり。初めは妙心尼めうしんの持尊なり、歿

後こゝに遷す。洛陽巡りの第十番なり〕